

てんか じょうぜん じょうぜん もの まが もの こう もつ
天下に常然あり。常然なる者は、曲れる者も鉤を以てせず、直き
もの じょう もつ まる もの き もつ ほう もの く もつ
者も繩を以てせず、円き者も規を以てせず、方なる者も矩を以て
ふり こうしつ もつ やくそく ぼくさく もつ ゆえ てんか
せず、附離も膠漆を以てせず、約束も纏策を以てせず。故に天下
ゆうぜん みなしよう そ しよう ゆえん し どうえん みな
誘然として皆生ずるも、其の生ずる所以を知らず。同焉として皆
え そ え ゆえん し ゆえ ここん ふじ
得るも、其の得る所以を知らず。故に古今は不二にして、虧くべか
らざるなり。すなわち仁義、又奚んぞ連連として膠漆纏策の如く
どうとく かん あそ な てんか まど
にして、道德の間に遊ぶことを為さんや。天下をして惑わしむ。

【大体の意味内容】

てんか じょうぜん こうじょうふへん しぜんじょうたい えいきゆうふへん しぜんげんり
天下には「常然」すなわち恒常不変の自然状態というものがある。永久不変の自然原理
である「常然」は、曲がっているものは鉤で曲げたわけではない。真つすぐなものは墨繩
ちよくせんじょう えんけい ぶんまわし えん か
で直線状にしたわけでもない。円形のもの 規 つまりコンパスで円を書いたわけでは
ない。角のあるものは矩すなわち直角定規で角つけたわけでもない。くつついてしまっ
ているものも、膠や漆を使ったわけではない。約めて束ねたものも、纏や策でくくった
のではない（みな自然にそうなっているだけだ）。それゆえに、世界中で様々な物が誘い出
されるように次々と生まれてくるのも、どうして生まれてくるのかその理由はわからない。
みなおな じぶん せんざい え せんざいりゆう せんざい
皆同じように自分という存在を得ているが、その存在理由まではわからない。したがって、
むかし いま ふた わ つね
昔と今とは二つに分かれているのではなく常なるもので、それを人の作為で壊すことはで
きない。「仁」や「義」といった人間の思想の産物を、言語や文字記号などの膠や漆で結
びつけ教条化してはいけない。特定の思考の枠や主義信条、宗教といった纏や策でくくつ

